

環境厚生常任委員会委員長報告

(H 2 7 . 6 . 2 5)

環境厚生常任委員会に付託されました議案について、審査の経過概要と結果を報告いたします。

まず、第 1 号議案、平成 2 7 年度一般会計補正予算の本委員会所管分ではありますが、その主な内容は、民生費において、第 6 期介護保険事業計画に基づき、住み慣れた地域で生活を続けられるように、施設整備を行う地域密着型サービス事業者に対する助成経費の増額補正。

また債務負担行為として、プラスチック製容器包装のリサイクル処理を計画的に進めるための経費を予算に定めるものであります。

別段異論なく、採決の結果は、全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、第 4 号議案 亀岡市こども医療費助成条例の一部を改正する条例の制定については、保護者の保険医療機関等における窓口での負担を軽減するとともに、医療費助成の利便性の向上を図るため、1 箇月 1 医療機関で 3 千円を超えた場

合、小学生又は中学生の通院に係る医療費助成の給付の方法を償還払いから現物給付に変更しようとするものであります。

別段異論なく、採決の結果は、全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、第5号議案 亀岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定については、厚生労働省令により、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準が改正され、家庭的保育事業所等に係る保育士の数の算定について、保健師又は看護師に加え、准看護師についても1人に限り保育士とみなすことができることとされたことに伴い改正するものであります。

採決に先立ち、サービスが低下するという印象を市民に与える恐れがあり、亀岡市で該当する事業が無い中、国の制度が改正されたからといって、すぐに条例を改正する必要はないとの反対討論がありました。

採決の結果は、賛成少数で否決すべきものと決定いたしました。

次に、本委員会に付託されました請願について、審査経過と結果を報告いたします。

受理番号３、「年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用を求める意見書の提出に関する請願」について、その趣旨は、年金積立金を、専ら被保険者の利益のために、長期的な観点から安全かつ確実に運用することと、年金積立金管理運用独立行政法人（ＧＰＩＦ）において、被保険者等の意思を確実に反映できる体制を構築することを求める意見書を、提出するよう求めるものであります。

討論では、年金積立金については、被保険者が運用先を選べない以上、積立金を管理・運用しているＧＰＩＦに被保険者等の意思を反映する仕組みが必要であるという賛成意見が出され、採決の結果は、全員をもって採択すべきものと決定しました。

以上、簡単であります。本委員会の報告といたします。

条例関係

こども医療費助成
条例の一部改正

小・中学生の通院医

療費が1カ月1医療機
関で3千円を超えた場
合の助成方法を、償還
払いから現物給付に変
更しようとするもの。

新たに配付される

「こども医療費受給者
証」の提示により、1
カ月1医療機関での窓
口負担の上限が3千円
となり、保護者の窓口
での負担軽減・申請手
続事務の軽減につなが
るもの。

全員賛成

亀岡市家庭的保育
事業等の設備及び
運営に関する基準
を定める条例の一
部改正

厚生労働省令により、
家庭的保育事業所等に
配置すべき保育士の数
の算定について、保健

師または看護師に加え、
准看護師も1人に限り
保育士とみなすことが
できるとされたことに
伴い、条例を改正しよ
うとするもの。

【主な質疑】

問議員 答担当部課長

問 この改正内容は
「従うべき基準」との
ことだが、従わないこ
とはできるのか。

答 条例の内容を直接
的に拘束する、必ず適
合しなければならぬ
基準である。基準の範
囲内で地域の実情に応
じた内容を定める条例
は許容されるが、異な
る内容を定めることは
できない。

問 地域の実情があれ
ば「従うべき基準」へ

の上乗せはできるので、
条例を改正しないとい
う選択肢もあるのでは
か
答 亀岡市において改
正事項が重要な事項で
あるという事実はなく、

地域の実情には当ては
まらないと考えている。

【反対討論】

サービスが低下すると
いう印象を市民に与え
る恐れがあり、亀岡市
で該当する事業が無い
中、国の制度が改正さ
れたからといって、す
ぐに条例を改正する必
要はない。

賛成少数

行政視察報告

(5月19日～21日)

東京都町田市

ごみ減量の取り組み

東京都荒川区

介護予防・日常生活

支援総合事業について

千葉県松戸市

利用者支援事業につ

いて(子育てコーディネ

ーター・子育てコン

シェルジュ)

町田市では、小型家

電リサイクルを学び、

行政・事業者・市民の

協働の取り組みが必要

であると感じました。

荒川区では「幸福実
感都市あらかわ」を目
指し様々な事業が進め
られており、区民幸福
度向上を目指す強い意
志が感じられました。

松戸市のおやこDE
広場は、就園前の親子
が気軽に参加でき、子
育て支援ができる重要
な場であると感じまし
た。

各視察項目は本市の
更なる施策充実に生か
していきます。

環境厚生常任委員会委員長

明田 昭

